

## 分科会報告書の取りまとめに向けた構成案の整理方針（案）

現在の構成案	日本の展望 「現代市民社会における教養・教養教育 —21世紀のリベラル・アーツの創造」	大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討分科会 「今日の大学における教養教育について」 (もしくは「学士課程における教養教育について」など)
<p>1. 作成の背景</p> <p>2. 現状及び問題点</p> <p>(1) 時代状況</p> <p>①グローバル化・国際化時代の諸課題</p> <p>②知識社会（知識基盤社会）の諸要請</p> <p>③大衆化する市民社会の諸課題</p> <p>④各種審議会の答申および各界の提言</p> <p>(2) 教養・教養教育の変遷と課題</p> <p>①教養の変化</p> <p>②大学における教養養育の変遷</p> <p>③20世紀アメリカの大学におけるリベラル・アーツの変遷</p> <p>④アメリカにおける大学教育の3つの概念</p> <p>(3) 現代社会における教養・教養教育の構造・構成要素</p> <p>①コンピテンス</p> <p>②教養教育（リベラル・アーツ）</p> <p>(4) 生涯学習社会・高等教育ユニバーサル化時代の大学教育の役割</p> <p>3. 提言等の内容</p> <p>2の(3)(4)の要点を整理し提言とする。</p>	<p>1. 作成の背景（藤田）</p> <p>2. 現代社会における「教養」をめぐる諸課題（藤田）</p> <p>(1) グローバル化・国際化時代の諸課題</p> <p>(2) 知識社会（知識基盤社会）の諸要請</p> <p>(3) 大衆化する市民社会の諸課題</p> <p>(4) 各種審議会の答申および各界の提言（廣田）</p> <p>3. 米国のリベラル・アーツ教育の変遷と到達点（藤田）</p> <p>(1) 教養の変化</p> <p>(2) 大学における教養養育の変遷</p> <p>(3) 20世紀アメリカの大学におけるリベラル・アーツの変遷</p> <p>(4) アメリカにおける大学教育の3つの概念</p> <p>4. 現代日本の市民社会における教養と教養教育</p> <p>(1) 現代社会における市民の「実践知」としての教養（苅部）</p> <p>(2) 大学の教養教育の在り方について（増淵）</p> <p>(3) 生涯学習社会・高等教育ユニバーサル化時代の大学教育の役割（藤田）</p> <p>5. 提言（藤田）</p> <p>4の要点を整理し提言とする。</p>	<p>1. 本報告書の性格（小林／廣田）</p> <p>2. 今日の大学における教養教育を考えるにあたって</p> <p>(1) 大学と教養教育（小林）</p> <p>(2) 市民としての「実践知」の涵養（苅部／河合／鈴木）</p> <p>(3) 「教養教育」の概念の再確認—「共通教育」やジェネリックスキルとの関わりについて</p> <p>※ 教養教育は、大学教育への導入教育でも、専門教育のための基礎教育でも、ジェネリックスキルの育成を直接の目的とした教育でもない、独自の意義を持つものであること。</p> <p>※ 同時に、単なる学問的な知識や理解の付与のみを目的としたものではなく、また、結果としてジェネリックスキルの形成に寄与するということが無視すべきではないこと。</p> <p>3. 教養教育の在り方に関する具体的な提言（小林／小林）</p> <p>(1) 教養教育の構成要素</p> <p>(2) 教養教育の教育手法</p> <p>(3) 教養教育と専門教育</p> <p>(4) 教養教育の実施時期</p> <p>4. 終わりに—関係各方面に対する要望（小林／小林／廣田）</p>